

東アジア言語領域

専任講師 王張璋

## 専門分野

異文化経営  
観光学

## 学位・資格

修士（文学）

研究者情報  
(Research Map)

## 専門分野と社会との関わり

日本に留学6年間、自動車業界に10年間、中国の水族館に5年間、振り返れば人生の半分は中国と日本のハサマで生きてきました。異文化の魅力に惹かれて日本にきて、もはや簡単に中国人だと気付かれないほど日本人化しているゆえに、異文化経営における文化的壁や、人材育成の問題などの難しい課題解決に、自身の経験と時間を研究に費やしています。時代と共に日々日本社会が変化しています、に加え“タイパ”、“コスバ”など新しい特質を持った若い世代に合う新しい教育方法をしていかなければならないと感じています。私の経験と知識最大に活かして、多様な人材輩出に貢献したいと思います。



## 最近の活動紹介

## 教育活動／研究活動

## 水族館での実践活動を通じて

僕の研究フィールドである水族館は、「種の保存」、「教育・環境教育」、「調査・研究」、「レクリエーション」の4つの社会的役割をもっています。僕らが水族館に行って癒されたり、いろんな生物に触れ合ったりすることは、ほんの一部の役割に過ぎず、水族館はもっと高い社会貢献と持続的な発展を求められています。そのため、水族館は経営と研究の両立、動物保護とショーのギャップ、生物の命を扱っての研究活動など、さまざまな課題を抱えています。

私の教育活動の一つとして、一水族館を楽しむ消費者ではなく、学生と一緒に調査したり、トレーナーと一緒に働いてみたりなどの実践活動を通じて、水族館の課題に向き合って考えていきます。



## 地域貢献活動

## 消費者心理と水族館経営の相互作用

水族館は高い運営コストがかかります。民営水族館は収入源確保のため、レクリエーション性を強化したり、定期的に新しい楽しみ方を追加したりすることで、来場者数を増やさなければならない現状があります。一方公営水族館は高い公益性を求められ、限られた年度予算内で運営しなければなりません。そのため、公営民営問わず、ほとんどの水族館が経営を維持するために、レクリエーション性を最も重視する傾向にあります。本心では「種の保存」、「教育・環境教育」、「調査・研究」の部分でもリピーターを増やしたいと努力をしています。私はこのような消費者心理と水族館経営の相互作用を研究することが、持続的な水族館の発展に役立てれると思い、活動しております。

